

	一般的名称	報告の概要
135	ハロペリドール	2型糖尿病を持ち抗精神薬を服用する患者において、糖尿病発症後2年間にインスリン療法(二次的過誤)を開始するというハザード比が上昇する恐れがある。
136	アンブレナビル	プロテアーゼ阻害剤投与群は非ヌクレオチド系逆転写酵素阻害剤投与群より潜在性冠動脈疾患を示す冠動脈カルシウム値は高値を示す。
137	塩酸バンコマイシン	Vancomycin-intermediate Staphylococcus aureusによる感染性心内膜炎の報告
138	下垂体性性腺刺激ホルモン	3D power Dopplar angiographyは卵巣過剰刺激症候群(OHSS)の発症予測や発症例の経過観察に有用である。
139	塩化アセチルコリン	アセチルコリン負荷試験施行時の合併症
140	イトラコナゾール	本剤とシメチジンによる腎臓における薬物相互作用は、P糖蛋白を介した腎尿細管分泌の影響を受ける薬剤の競合阻害に起因する可能性がある。
141	デキサメタゾン	経口グルココルチコイドの使用は心血管系及び脳血管系疾患のリスクを増加させることが示唆された。
142	オメプラゾール	高齢者でのPPI/H2RAの長期投与によりビタミンB12欠乏のリスクが増加する。
143	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	若年性皮膚筋炎に対する免疫グロブリン(IVIG)の有効性および安全性を調査したところ、有効性を確認できたが、頭痛(47%)の発現頻度が高かった。
144	セボフルラン	セボフルランとバラライム(Co2吸着剤)の反応による爆発、発火の報告
145	セボフルラン	セボフルランとバラライム(Co2吸着剤)の反応による爆発、発火の報告
146	酢酸メドロキシプロゲステロン	閉経後ホルモン補充療法は耐糖能異常(AGT;糖尿病あるいは耐糖能障害)を示す女性におけるアテローム性動脈硬化症の増悪と炎症マーカーの悪化に関与している。
147	テガフル・ウラシル	ビンレルビン、シスプラチン及びテガフル・ウラシルによる導入化学療法第2相試験により、好中球減少性敗血症が原因となった死亡例があった。
148	ファレカルシトリオール	維持透析下の二次性副甲状腺機能亢進症に対するビタミンD3製剤投与患者に無形成骨が発現した。
149	エトポシド	CHOP(CYCLOPHOSPHAMIDE、DOXORUBICIN、VINCRISTINE、PREDNISONE)療法およびCHOEP(4剤+ETOPOSIDE)療法において死亡および二次発癌があった
150	エトポシド	CHOP(CYCLOPHOSPHAMIDE、DOXORUBICIN、VINCRISTINE、PREDNISONE)療法およびCHOEP(4剤+ETOPOSIDE)療法において死亡および二次発癌があった
151	インフルエンザHAワクチン	インフルエンザワクチン皮内反応によるアナフィラキシーショックの1例
152	インフルエンザHAワクチン	インフルエンザワクチン接種によりリウマチ性多発性筋炎を発症した例
153	乾燥弱毒生風しんワクチン	MRワクチン接種後の視神経炎発症について
154	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用は外陰前庭炎のリスクを増加する可能性がある。
155	ケトコナゾール	ミダゾラムはケトコナゾール(CYP3A阻害剤)との併用により薬物動態が有意に変化する。

	一般的名称	報告の概要
156	ケトコナゾール	ミダゾラムはケトコナゾール(CYP3A阻害剤)との併用により薬物動態が有意に変化する。
157	テガフル・ウラシル	胃癌に対して、テガフル・ウラシル術前化学療法(NAC)を施行したところ、GOT上昇(GOT:500以上)が2例に認められた。
158	酢酸メドロキシプロゲステロン	閉経後ホルモン補充療法は耐糖能異常(AGT;糖尿病あるいは耐糖能障害)を示す女性におけるアテローム性動脈硬化症の増悪と炎症マーカーの悪化に関与している。
159	シメチジン	シメチジンとイトラコナゾールとの併用により、シメチジンのクリアランスの低下が示唆された。
160	インドシアニングリーン	ICG使用の内境界膜剥離術は黄斑円孔手術の解剖学的に成功率を高めるが、潜在的に視力や周辺の視野欠損に悪影響があるかもしれない。
161	リン酸コデイン	リン酸コデインにより重篤な過敏症候群と免疫性血小板減少性紫斑病が発症した1例
162	インドメタシン	変形性関節症において、非ステロイド系抗炎症外用剤の長期連用を支持するエビデンスはない。
163	シンバスタチン	シンバスタチンとアミオダロンの併用により横紋筋融解症が発現したという1例
164	プレドニゾン	慢性間接リウマチ治療中に合併したサイトメガロウイルス網膜炎の1例
165	乾燥弱毒生麻しんワクチン	本症例において発見された人ウイルス株と2個の英国豚ウイルス株との間の類似性は人獣共通感染伝播を示唆している。
166	イトラコナゾール	シタラビン、イダルビシン等のAML治療薬とアゾール系(本剤及びcaspofungin)の併用によりCYP3A4による代謝阻害が見られる可能性がある。
167	胎盤性性腺刺激ホルモン	卵巣過剰刺激症候群に伴った脳梗塞の1例
168	コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム	同種幹細胞移植後に膜性腎症を発現し、ステロイドパルス療法を実施したところ、細菌性髄膜炎を起した1例
169	エチドロン酸二ナトリウム	ビスフォスフォネート系薬剤の治療歴のある患者で顎の骨髓炎、骨壊死の発現例が63例認められた。
170	ベンズプロマロン	痛風治療薬による薬物性肝障害の1例
171	カルベジロール	カルベジロール投与患者に起こった重篤なアナフィラキシーの1例
172	セフトリアキソンナトリウム	セフトリアキソンナトリウム投与患者に起こった重篤なアナフィラキシーの1例
173	ピペラシリンナトリウム	SJSとTENの原因薬物内訳は45%が抗生物質、30%が抗痙攣薬、20%が鎮痛薬によるものであった。
174	ドンペリドン	ドンペリドンにより薬剤性錐体外路症状をきたしたと考えられる1例
175	ワルファリンカリウム	ワルファリンとアスピリンによる抗凝血療法中の患者に対しレーザー光凝固術を行ったところ、上脈絡膜出血を来し視力消失が生じた1例

	一般的名称	報告の概要
176	硫酸アトロピン	心臓移植後の症例25例に硫酸アトロピンを投与。薬理的に逆説的な作用が5例[房室ブロック4件、洞停止2件]に認められた。
177	リドカイン	抗痙攣療法としてリドカインを新生児に投与すると不整脈発生のリスクがある。
178	エリスロマイシン	心原性の突然死の発現率は、CYP3A阻害剤や抗生物質の何れも使用していなかった患者に比較し、CYP3A阻害剤とエリスロマイシンを同時に使用していた患者の方が高かった。
179	メシル酸イマチニブ	ラットにおける2年間のがん原性試験において、腎臓、膀胱、包皮腺及び陰核腺で腫瘍発現率の増加が認められた。
180	乾燥まむし抗毒素	本症例において発見された人ウイルス株と2個の英国豚ウイルス株との間の類似性は人獣共通感染伝播を示唆している。
181	ハロペリドール	2型糖尿病患者における抗精神病薬によるインシュリン療法開始リスク上昇
182	マレイン酸レボメプロマジン	2型糖尿病患者における抗精神病薬によるインシュリン療法開始リスク上昇
183	塩酸プロメタジン	塩酸プロメタジンとクロルプロマジンにより重篤な悪性症候群が発症した1例
184	プロピルチオウラシル	プロピルチオウラシル (PTU)またはチアマゾール (MMI)の前投与は、その後の放射性ヨード (RAI)治療に影響を及ぼす。
185	アモキシシリン	アモキシシリンを内服後にStevens-Johnson症候群を発症し、その後の臨床経過で閉塞性細気管支炎を合併したと考えられる1例
186	リン酸デキサメタゾンナトリウム	早産の合併症を予防するためのデキサメタゾンの複数回出生前投与が白質軟化症のリスク増加と2歳時の神経発達精神障害に関連していた。
187	非ピリン系感冒剤	アセトアミノフェン及びクロルフェニラミン併用投与に関連した第8因子阻害物質を有する後天性血友病の1例
188	塩酸パロキセチン水和物	妊娠第3期にパロキセチンを服用した妊婦において出産時に出血が見られた妊婦の割合が高かった。
189	アモキシシリン	閉塞性細気管支炎による呼吸機能障害を遺したStevens-Johnson症候群の1例
190	塩酸ブプレノルフィン	ブプレノルフィン曝露妊娠から生児出産31例、死産1例、自然流産1例、任意中絶1例となった。新生児離脱症候群は13例(41.9%)にみられ、この内8例はオピエート治療を要した。新生児2例に早期動脈管狭窄と耳珠垂(tragus appendix)の奇形がみられた。
191	ジアゼパム	意識障害で入退院を繰り返したジアゼパム中毒の1例
192	ステアリン酸エリスロマイシン	心原性の突然死の発現率は、CYP3A阻害剤や抗生物質の何れも使用していなかった患者に比較し、CYP3A阻害剤とエリスロマイシンを同時に使用していた患者の方が高かった。
193	マレイン酸フルフェナジン	プロラクチンを上昇させる抗精神病薬の長期投与は、骨塩密度減少の高リスク因子となることが示唆された。
194	スルピリド	スルピリドを投与された患者がジストニアを発現した1例

	一般的名称	報告の概要
195	リスベリドン	リスベリドンは直接的にヒト心筋層に心臓電気生理学的影響を及ぼすことが判明した。このことから、何ら疾病素質を持ち合わせない患者においてもリスベリドンは心室性不整脈を惹起しうる中程度のリスクがあることが示唆された。
196	プレドニゾン	プレドニゾンにより重篤な深頸部膿瘍が発症した1例
197	プレドニゾン	プレドニゾンにより重篤な深頸部膿瘍が発症した1例
198	リン酸デキサメタゾンナトリウム	超低出生体重児に対するデキサメタゾン投与例の検討結果、短期的な副作用として、高血圧、徐脈、尿量減少など循環への影響がみられた。また、DEX投与群では身長、頭囲の発育が不良で精神発達遅滞、脳性麻痺の頻度が高く、発達の予後も不良であった。
199	オメプラゾール	高齢者でのH2RA/PPIの長期使用とビタミンB12欠乏の発現との関連が示唆された。
200	スルピリド	ハロペリドール、レボメプロマジン、スルピリドなどの抗精神病薬投与中の患者において、S状結腸捻転術後悪性症候群が発症した1例
201	ジクロフェナクナトリウム	ジクロフェナクナトリウム坐剤の投与によりリポイドネフローシスが発症した1例
202	非ピリン系感冒剤	アセトアミノフェン毒性にある患者で高アミラーゼ血症及び急性膵炎が発生する恐れがある。
203	酒石酸ゾルピデム	入院中の本剤使用患者において中枢神経系副作用の発現頻度が高い。
204	アセトアミノフェン	広く使用されている解熱鎮痛剤であるアセトアミノフェンの副作用と相互作用
205	ステアリン酸エリスロマイシン	心原性の突然死の発現率は、CYP3A阻害剤や抗生物質の何れも使用していなかった患者に比較し、CYP3A阻害剤とエリスロマイシンを同時に使用していた患者の方が高かった。
206	イトラコナゾール	イトラコナゾールの代謝酵素CYP3A4阻害作用により、単回投与されたエチゾラムのAUCが有意に増加、消失半減期が有意に延長した。
207	エチゾラム	イトラコナゾールの代謝酵素CYP3A4阻害作用により、単回投与されたエチゾラムのAUCが有意に増加、消失半減期が有意に延長した。
208	クエン酸クロミフェン	生後初期のクロミフェン投与は雄ラットにおいても、雌と同様に成熟後に顕著な生殖器官の異常を引き起こす事が示唆された。
209	小柴胡湯	小柴胡湯服用中に発症した間質性肺炎の1例
210	大柴胡湯	薬剤性間質性腎炎の経過及び予後については原因薬剤を早期に休薬すれば、速やかに改善するのが一般的である。しかし、早期に発見できず、間質の線維化を来した例では、予後不良となると考えられた。
211	エトポシド	VEPA/FEPP療法は、LSG4と同等効果で感染症頻度が低く、CHOPに比肩しうる治療法と思われる。
212	ブスルファン	急性骨髄性白血病(AML)および骨髄異形成症候群(MDS)に対する同種造血幹細胞移植(HSCT)の前処置にブスルファン静注およびフルダラビン静注を用いた試験において、主に進行期疾患の患者からなる群でレジメンに関連する死亡が1例認められた。死亡したのは、真菌性肺炎およびうっ血性心不全の治療歴を持ち、AMLが持続している状態で肺出血の併発による移植関連サイトカイン症候群を来した患者であった。

	一般的名称	報告の概要
213	ブスルファン	予後不良のMDSに対する非血縁造血幹細胞を用いたRIST(URIST)について検討したなかで、肺炎、TMAによる死亡例が認められた。
214	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	交差適合試験陽性の腎移植後に行われるタクロリムスと低容量の免疫グロブリンとの併用は、タクロリムスを単独で投与した場合に比べ、近位尿細管上皮細胞の空胞化をより高頻度に広範囲に起こす。
215	ブスルファン	22年間の急性リンパ性白血病の強力な前処置による同種骨髄移植成績を述べた。最大の障害は原病の再発であるが、標準リスク群では良好な長期生存率48%(15年)を示すことができた。
216	ブスルファン	臍帯血を用いた非破壊的造血細胞移植(RIST)の現状についての発表のなかで、移植後早期死亡3症例(出血性心外膜炎、VOD、TMA各1症例)がみとめられたと報告された。
217	ブスルファン	単施設での過去17年間の移植症例におけるVODについて検討した。VODが重症化するに致死的で死亡までの経過が非常に短い。抗凝固療法や血栓溶解療法などの治療対象例の適切な選択と有効な予防法の確立などにより、VOD合併例の予後の改善が期待できる。
218	塩酸クロロプロマジン	抗精神病薬を使用している日本人女性は、肺動脈血栓症の危険性が高いと考えられる。
219	ブスルファン	日本骨髄ドナープログラムから特定した非血縁者ドナーの骨髄を用いて骨髄移植(BMT)を受けた先天性遺伝病患者81例の臨床成績をレトロスペクティブに解析した結果、間質性肺炎 3名、敗血症 3名、VOD 2名、出血 3名、肝不全 1名、腎不全 2名の死亡例がみられた。
220	ブスルファン	自己末梢血幹細胞移植を受け第1完全寛解期にある成人AML患者を対象に、受診順に行った末梢血幹細胞(PBSC)を採取するための2つのプロトコルの臨床成績を比較した。そのなかで移植関連死が5例観察された。
221	防風通聖散	肥満改善薬として用いられた防風通聖散による薬物性肝障害の1例
222	ロキソプロフェンナトリウム	ロキソプロフェンナトリウムによると考えられる急性間質性腎炎を来した例
223	シクロホスファミド	ホモ接合のCYP2B6*5及びCYP2C19*2では末期腎疾患の発生率及びクレアチニン濃度が倍増する恐れがある。
224	ロキソプロフェンナトリウム	ロキソプロフェンナトリウムによると考えられる急性間質性腎炎を来した1例
225	シクロホスファミド	再生不良性貧血の造血幹細胞移植における前処置としてシクロホスファミドを投与した場合、心毒性の発生頻度の上昇が見られた。
226	ケトコナゾール	本剤との併用によりトリアゾラムのクリアランスを低下させ、トリアゾラムの血中濃度及び組織濃度を増加させる。
227	塩酸イリノテカン	塩酸イリノテカン(CPT-11)を含む化学療法を実施した転移性結腸・直腸癌患者において、UGT1A1*28の遺伝子多型と「重篤な下痢」ならびに「重篤な無力症」の間に有意な相関が認められた。
228	塩酸チクロピジン	大腿アプローチMesh-plug法術後に腹膜前腔に巨大血腫を生じた大腿ヘルニアの1例
229	イトラコナゾール	本剤はエチゾラムの代謝を阻害し、CYP3A4は少なくとも部分的にエチゾラムの代謝に関与することが示唆された。
230	アスピリン	吐血で発症した膵嚢胞腺腫内出血の1例
231	フマル酸テノホビルジシプロキシル	骨密度減少はウイルス量減少と相互関係があり、このような反応が見られた者では、骨毒性のリスクがより高い可能性が示された。

	一般的名称	報告の概要
232	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	静注用免疫グロブリン製剤の特発性血小板減少性紫斑病 (ITP) と原発性免疫不全症候群 (PID) の臨床試験において、副作用が本剤の使用上の注意に記載しているよりも高率に発現している。
233	麦門冬湯	超音波内視鏡にて観察し得た胃アミロイドーシスの1例
234	塩酸ファスジル水和物	塩酸ファスジル水和物のラット及びウサギにおける持続静脈内投与による胎児の器官形成期投与試験で、催奇形性を示す結果が得られた。
235	テガフル・ギメラシル・オテラシル	胃癌を対象としたテガフル・ギメラシル・オテラシル / Paclitaxel併用療法において、グレード3以上の好中球減少、下痢、ビリルビン値異常、神経障害が各1例発現した。
236	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	二次進行型多発性硬化症に対する免疫グロブリン (IVIg) の二重盲検プラセボ対照試験において、深部静脈血栓が6/159、肺動脈塞栓症が4/159の頻度で発現した。
237	ハロペリドール	抗精神病薬を使用している日本女性は、肺動脈血栓塞栓症の危険性が高いと考えられる。
238	塩酸イリノテカン	塩酸イリノテカン (CPT-11) を含む化学療法を実施した進行性結腸・直腸癌患者において、UGT1A1のTATAboxの遺伝子多型と「高度な好中球減少」の発現率との間に有意な相関性が認められた。
239	エトポシド	エトポシド添加下で、二次性白血病でよく知られている染色体異常が生じるまでの過程が報告されており、エトポシドによる発ガンの可能性が否定できない。
240	ロキソプロフェンナトリウム	ロキソプロフェンナトリウムの内服が誘因となりReye症候群が発現した1例
241	アロプリノール	アロプリノールの服用により血管炎を来とし脳梗塞を合併した1例
242	アロプリノール	アロプリノールとベンズプロマロンの投与により薬物性肝障害が発症した1例
243	塩酸イリノテカン	塩酸イリノテカン (CPT-11) を含む化学療法を実施した転移性結腸・直腸癌患者において、UGT1A1*28の遺伝子多型と「重篤な下痢」ならびに「重篤な無力症」の間に有意な相関が認められた。
244	アスピリン	アスピリンにCOX-2選択的阻害剤や非選択的NSAIDsを併用することで、潰瘍リスクが上昇する。
245	高カロリー輸液用総合ビタミン剤 (6)	抗酸化サプリメントは胃腸がんを予防するエビデンスはみられず、ビタミンAとβカロチン及びビタミンEとβカロチンの併用は全死亡率を有意に増加させた。
246	インフルエンザHAワクチン	インフルエンザワクチン接種後に生じた脳幹脳炎の1例
247	メトレキサート	悪性腹水を伴う進行性胃癌 (AGC) に対するMTXと5-FUの逐次療法 (MF) の有効性と毒性を検討した第2相試験において10例の好中球減少症 (グレード3及び4) が発現し、このうちの2例に治療関連死が認められた。
248	コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム	コルチコステロイド投与が誘因と考えられた正常血圧性強皮症腎クリーゼの1例
249	塩酸ミトキサントロン	ミトキサントロンを使用した臨床試験において、本剤との関連性が完全には否定できない死亡例が報告された。
250	塩酸チアプリド	塩酸チアプリド、塩酸スルトプリド等の向精神薬投与中の患者において悪性症候群が発症した1例

	一般的名称	報告の概要
251	スルピリド	スルピリド等の向精神薬投与中の患者において悪性症候群が発症した1例
252	アセトアミノフェン	アセトアミノフェンの長期投与がアスピリンや他のNSAIDsの長期投与と比較して、腎機能を低下させる危険性が高い。
253	スルピリド	劇症肝炎の回復期にヘルペス脳炎を発病した1例
254	シクロホスファミド	進行非円形細胞型肉腫に対して、シクロホスファミド1200mg/m ² ・イホスファミド14g/m ² ・ドキソルビシン60mg/m ² 投与した際、単剤を所定の容量で投与した際より、好中球減少の発生を高率に認めた。
255	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊剤の使用とアルコールの相互作用により、乳癌のリスクが増加する可能性がある。
256	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊剤の使用と乳癌リスクとの関係はNQO1遺伝子型によって異なる可能性がある。
257	バルプロ酸ナトリウム	妊娠中にバルプロ酸を服用していた母親が二分脊椎を出産した例
258	フェニトイン	妊娠中にフェニトインを服用していた母親が二分脊椎を出産した例
259	フェルビナク	米国で実施されたフェルビナク貼付剤とプラセボとの間で有効性と安全性においての有意差が認められない。
260	トラネキサム酸	小児は成人と異なり、心臓手術時の出血に対して、トラネキサム酸(TA)が有効でないか、あるいは、より高用量を必要とする可能性があることが示唆された。
261	ケトプロフェン	ジクロフェナク、ロキソプロフェンの投与に耐性が認められた喘息の既往をもつ患者に対し、最初のNSAID投与から3年後にアスピリン、ケトプロフェンを投与したところ重篤な喘息発作を発現した例
262	レノグラスタム(遺伝子組換え)	rG-CSF投与症例において血液学的悪性腫瘍が高頻度で発現した。
263	プレドニゾン	プレドニゾンを含む免疫抑制療法を行った結果、心停止、敗血症、播種性血管内凝固症候群による死亡が認められている。
264	デキサメタゾン	デキサメタゾンを含む化学療法を行った結果、心筋梗塞及び気管支肺炎による死亡が認められている。
265	エリスロマイシン	表皮細胞によるCTACK/CCL27の産生及びCCR10+リンパ球が中毒性表皮壊死症及びSJSの発現時にみとめられる
266	エリスロマイシン	心原性の突然死の発現率は、CYP3A阻害剤や抗生物質の何れも使用していなかった患者に比較し、CYP3A阻害剤とエリスロマイシンを同時に使用していた患者の方が高かった。
267	ホリナートカルシウム	本剤を含む併用療法に関する臨床試験において、本剤との因果関係を否定できない死亡例が報告された。(好中球減少性敗血症による死亡例)
268	フルコナゾール	フルコナゾールが危篤状態の患者に投与されたとき、ICU(集中治療室)の滞在期間と入院日数が有意に延長した。
269	コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム	頭部外傷後にメチルプレドニゾン投与しても2週間以内の死亡率は低下しないことを示唆した。しかし、2週間以内の死亡リスクが上昇した原因は不明である。
270	インフルエンザHAワクチン	インフルエンザワクチン接種後に発症した顕微鏡的多発血管炎の1例